

第32期第1回 横浜市児童福祉審議会 障害児部会 会議録

| | |
|---|--|
| 日 時 | 平成31年3月5日(火) 18時から20時まで |
| 開催場所 | 横浜市庁舎8階 8B会議室 |
| 出席者 | 岩佐光章(部会長)、多田純夫(副部会長)、森佳代子委員 |
| 欠席者 | なし |
| 開催形態 | 公開(傍聴者0人) |
| 議 題 | <p>1 開会あいさつ</p> <p>2 議題 部会長、副部会長の選出について</p> <p>3 報告事項 (1) 平成31年度予算概要について (2) 横浜市発達障害検討委員会の検討状況について (3) その他</p> |
| 決定事項等 | 部会長及び副部会長を決定した。 |
| <p>1 開会あいさつ</p> <p>2 議題 部会長、副部会長の選出について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多田委員の提案により、岩佐委員が部会長に就任。 ・岩佐委員の提案により、多田委員が副部会長に就任。 <p>3 報告事項</p> <p>(1) 平成31年度予算概要について 事務局より資料に基づき説明</p> <p>○岩佐委員 医療環境整備事業<拡充>について、コーディネーターが計画されて、2人配置とのことだが、職種は医療系か。</p> <p>○事務局 医療的な知識が十分にあったほうがいいと考え、看護職が担うことになっている。</p> <p>○多田委員 グループホームについて、新設44か所が障害児の移行関連ということだが、障害児施設の法人等が手を挙げているということなのか。</p> <p>○事務局 基本的には横浜市から各法人へ声をかけている。児・者両方やっている法人がメインになっているが、者のみの法人から申込をもらったことも実績としてある。</p> <p>○森委員 幼児教育無償化について、併用の場合も全て無償ということか。</p> <p>○事務局 そうだ。利用の増加要因・押し上げ要因にはなると考えている。</p> <p>○森委員 民間の事業所も増えている中で、質の問題を感じる。</p> <p>○事務局 質の担保については、監査体制の充実、研修体制の充実を図っている。また、各区ごとに、放課後等デイサービス及び児童発達支援の連絡会を立ち上げて情報交換できないか検討中である。</p> <p>(2) 横浜市発達障害検討委員会の検討状況について 事務局より資料に基づき説明</p> <p>○多田委員 期待は大きい。「軽度の知的な遅れを伴う、あるいは知的な遅れを伴わない発達障害児・者」について、このレベルの子が入所しているが、その場しのぎでやっつけてしまっている、こういう</p> | |

ものができるが良い。

○森委員 学校と保護者の連携も大事。また、知的に遅れがない子に関しての、親や先生へのフォローも大事になってくると考える。

(3) その他

岩佐部会長より別紙資料に基づき説明

○森委員 行政も「切れ目のない支援」と言っているが、「切れている」というのが実感としてある。福祉・家庭・教育だけでなく、医療も含めて連携する必要があると考える。

○多田委員 成人期になると次に行くところを考えないといけない。入院等をお願いすることもあるが、医療にかかっている子も、区分認定で探さなければならない。その際に主治医の意見書が必要になる。医療については、どこにどうお願いするかが悩みの種。

| | | |
|------|------|----------------------------|
| 資料 | 資料1 | 第32期横浜市児童福祉審議会 障害児部会委員名簿 |
| | 資料2 | 第32期横浜市児童福祉審議会 委員名簿 |
| | 資料3 | 横浜市児童福祉審議会運営要綱 |
| | 資料4 | 第32期横浜市児童福祉審議会 障害児部会次第 |
| | 資料5 | 平成31年度予算概要（障害児・者施策抜粋版） |
| | 資料6 | 第47回横浜市発達障害検討委員会資料一式 |
| | 資料7 | 横浜型医療的ケア児・者等コーディネーターを配置します |
| | 別紙資料 | 小児から成人への移行期について |
| 特記事項 | なし | |